

諏訪地方におけるツガマイタケについて

小 山 明 人*

1 はじめに

ツガマイタケ *Osteina obducta* (Berk.) Donk はタマチョレイタケ目ツガサルノコシカケ科ツガマイタケ属の基準種である。本種は長野県版レッドデータリスト 2014 において情報不足のカテゴリーにランクされ、また、環境省レッドデータリスト 2014 においても情報不足のカテゴリーにランクされていることから、八ヶ岳を主とした分布と発生期間を調査した。本調査は 2015 年度から始めて 3 年目となるので、2017 年の結果を示し、3 年間の結果を考察する。

2 調査方法

分布調査は基質を確認して子実体を採集した。調査は八ヶ岳周辺を中心に乗鞍高原、木曾御嶽山、南アルプス北沢峠、奥秩父など長野県、山梨県、岐阜県、埼玉県で行った。調査は 2015 年から 2017 年の間に 85 回実施した。

発生期間調査は、八ヶ岳の沢沿いの林道約 1.7km においてルートセンサスにより林道の左右 1 m 程度を目視し、発生した子実体を番号によって識別して発生から消滅するまで撮影して記録した。2017 年の発生期間調査は 6 月 16 日から 11 月 4 日までの間に 30 回実施し、2015 年から 2017 年の間では 65 回実施した。調査は茅野市八ヶ岳総合博物館キノコグループ有志に協力いただいた。

3 結果

(1) 2017 年の分布調査と定点観察地での発生期間調査

分布調査では定点観察地以外において 4 ケ所で子実体を採集した。また、3 年間では 9 ケ所で採集した(表 1)(図 1)。

定点観察地での 22 子実体の発生期間を表 2 に示す。幼菌から消滅するまで確認できたのは 17 子実体で、発生期間が最も短かったものは 12 日間、最長は 62 日間、平均 40 日間だった。また、発生の初日は 6 月 24 日、最終日は 10 月 24 日だった。一回の観察でもっとも発生数が多かったのは 8 月 7 日の 17 子実体、次いで 7 月 26 日、27 日、31 日の 16 子実体だった。

(2) 3 年間の調査結果

ツガマイタケは八ヶ岳、富士山、奥秩父、南アルプスの入笠山山系において発生が確認された。また、奥秩父山系の埼玉県側、長野県の乗鞍高原、岐阜県を含む御嶽山はカラマツ林樹下にササ類が密生し倒木や切株を探すことが困難だった。基質はカラマツが多数を占め、コメツガからの発生も 4 子実体が観察された。標高は最低が奥秩父のカラマツ林で 1539 m、最高が富士山奥庭のコメツガ林で 2180 m だった(表 1)。

発生期間は、初日は 2015 年が 6 月 24 日(小山 2016)、2016 年は 6 月 8 日(小山 2017)、2017 年は 6 月 24 日だったことから 6 月中旬に発生が始まることがわかった。最盛期は 2015 年が 6 月 23 日、2016 年は 7 月 5 日から 8 月 6 日、2017 年は 8 月 7 日だったことから 7 月から 8 月初旬である。発生の終わりは 2015 年が 10 月 1 日、2016 年は 12 月 15 日に凍結を確認した。2017 年は 10 月 24 日だったことから夏以降も少数発生し秋から冬にかけて終わることがわかった。子実体ごとの発生期間は 2015 年の 3 子実体平均は 37 日間、2016 年は 8 子実体で平均 40 日間、2017 年は 17 子実体で 40 日間だった。

4 考察

この 3 年間の調査でツガマイタケは八ヶ岳の麦草峠以北、並びに南アルプス山系の入笠山から杖突峠までの地域での発生は確認できなかった。また、ルートセンサス実施地でも 1600 m 以下では確認できなかったことから、本州中部では冷涼な環境を好むことが示唆された。また、本調査以外では愛媛県(愛媛県産菌類確認リスト, 2012)、熊本県(熊本県で観察されたきのこ, 2015) の記録があり、広く分布していることがわかった。

発生基質はカラマツ、コメツガであったが、愛媛県ではツガであり、熊本県もツガに発生した可能性がある。また、カラマツ林では湿潤な環境下で発生が認められたが、尾根筋の乾燥気味の環境では確認できなかった。一方、コメツガ林では尾根沿いの乾燥した環境下でも 3 子実体が確認できたことから樹種により発生環境が異なることが示唆された。

発生期間は6月から10月くらいまで長期に渡り、最盛期は7月から8月上旬であることがわかった。ルートセンサスの調査地では2017年に22子実体を確認したが、最盛期には林道沿いの左右1m以上を含めると相当数が発生していた。本調査以外では2013年7月4日に南アルプス鋸岳山麓のカラマツ林内の100m程度の林道沿いで32子実体を確認している。これらから発生数は多くはないが、八ヶ岳の調査地や南アルプスなど湿潤環境のカラマツ林では多数発生することがわかった。

以上からツガマイタケは標高1500m以上の冷涼な環境を好み基質はカラマツとコメツガである。また、埼玉県から熊本県まで広く分布することから発生地は限られるものの希少種とは言えないようである。



図1 富士山4合目奥庭で発見したツガマイタケ
2017年9月2日 基質はコメツガ

5 引用文献

小山明人 (2016) 茅野市八ヶ岳総合博物館紀要 24:5-6

小山明人 (2017) 茅野市八ヶ岳総合博物館紀要 25:14-15

沖野登美雄 (2012) 愛媛県産菌類確認リスト .p 582

塩津孝博編 (2015) 熊本県で観察されたキノコ .p 145

謝辞 調査にあたり多くの調査を実施することができました。荒野民雄氏、市川浩久氏、上原裕雄氏、上原妙子氏、牛山雄二氏、岡本巖氏、岡本美佐子氏、小林智子氏にご協力いただき感謝いたします。

表1 ツガマイタケの発生地

標本 No.	採集年	月	日	採集地	基質	標高	山域	採集者
1409	2015	6	6	長野県諏訪郡原村	カラマツ	1666 m	八ヶ岳	市川浩久
1419	2015	7	7	長野県茅野市豊平	コメツガ	1930 m	八ヶ岳	牛山雄二
1421	2015	7	8	長野県茅野市豊平	コメツガ	1970 m	八ヶ岳	牛山雄二
1424	2015	7	10	長野県茅野市北山	カラマツ	1800 m	八ヶ岳	岡本 巖
1431	2015	7	15	長野県諏訪郡原村	カラマツ	1760 m	八ヶ岳	小山明人
1448	2015	8	2	長野県諏訪郡富士見町富士見	カラマツ	1646 m	南アルプス	小山明人
1550	2016	6	27	長野県諏訪郡富士見町富士見	カラマツ	1646m	南アルプス	小山明人
1761	2017	7	16	長野県南佐久郡川上村大字梓山	カラマツ	1539 m	奥秩父	小山明人
1765	2017	7	21	長野県茅野市豊平	コメツガ	1930m	八ヶ岳	牛山雄二
1788	2017	8	6	長野県南佐久郡小海町大字千代里	カラマツ	1662 m	八ヶ岳	小山明人
1854	2017	9	2	山梨県南都留郡鳴沢村	コメツガ	2180 m	富士山	小山明人

表2 ツガマイタケの発生期間

調査回数	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22	23	24	25	26	27	28	29	30		
子実体No.	6月16日	6月24日	7月2日	7月3日	7月6日	7月8日	7月12日	7月13日	7月14日	7月19日	7月21日	7月26日	7月27日	7月31日	8月2日	8月6日	8月7日	8月9日	8月14日	8月19日	8月21日	8月25日	8月25日	8月31日	9月1日	9月13日	9月26日	10月7日	#####	11月4日	発生日数	
1	-	幼菌	成菌	成菌	成菌	成菌	成菌	成菌	成菌	成菌	成菌	老菌	老菌	老菌	老菌	老菌	老菌	老菌	老菌	老菌	老菌	老菌	-	-	-	-	-	-	-	-	62	
2	-	幼菌	幼菌	幼菌	幼菌	幼菌	成菌	成菌	成菌	成菌	成菌	成菌	成菌	成菌	成菌	未確認	老菌	老菌	老菌	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	51	
3	-	-	幼菌	幼菌	成菌	成菌	成菌	成菌	成菌	成菌	成菌	成菌	成菌	成菌	老菌	老菌	老菌	老菌	老菌	老菌	老菌	老菌	老菌	-	-	-	-	-	-	-	54	
4	-	-	幼菌	幼菌	幼菌	幼菌	成菌	成菌	成菌	成菌	成菌	成菌	成菌	成菌	成菌	成菌	老菌	老菌	老菌	老菌	老菌	老菌	老菌	老菌	-	-	-	-	-	-	60	
5	-	-	-	-	幼菌	幼菌	成菌	成菌	成菌	成菌	成菌	老菌	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	20		
6	-	-	-	-	-	-	-	幼菌	幼菌	幼菌	成菌	老菌	老菌	老菌	老菌	老菌	老菌	老菌	老菌	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	32	
7	-	-	-	-	-	-	-	幼菌	幼菌	幼菌	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	6	
8	-	-	-	-	-	-	-	幼菌	幼菌	幼菌	成菌	成菌	成菌	成菌	老菌	老菌	老菌	老菌	老菌	老菌	老菌	老菌	老菌	老菌	老菌	老菌	老菌	-	-	-	50	
9	-	-	-	-	-	-	-	幼菌	幼菌	幼菌	成菌	成菌	成菌	成菌	成菌	成菌	老菌	老菌	老菌	老菌	老菌	老菌	老菌	-	-	-	-	-	-	-	43	
10	-	-	-	-	-	-	-	幼菌	幼菌	幼菌	成菌	成菌	成菌	成菌	未確認	老菌	老菌	老菌	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	27	
11	-	-	-	-	-	-	-	幼菌	幼菌	幼菌	成菌	成菌	成菌	成菌	未確認	成菌	成菌	成菌	成菌	成菌	成菌	成菌	成菌	成菌	老菌	成菌	老菌	-	-	-	62	
12	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	幼菌	成菌	成菌	成菌	成菌	成菌	成菌	成菌	成菌	老菌	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	24	
13	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	成菌	成菌	成菌	成菌	未確認	未確認	成菌	成菌	成菌	老菌	老菌	老菌	老菌	老菌	老菌	老菌	-	-	-	-	42	
14	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	幼菌	成菌	成菌	成菌	成菌	成菌	成菌	成菌	成菌	成菌	成菌	成菌	成菌	成菌	成菌	成菌	-	-	-	-	42	
15	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	幼菌	成菌	成菌	成菌	成菌	成菌	老菌	老菌	老菌	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	24	
16	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	幼菌	成菌	成菌	成菌	老菌	未確認	老菌	老菌	老菌	老菌	老菌	老菌	老菌	-	-	-	-	-	-	-	35	
17	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	幼菌	幼菌	幼菌	成菌	未確認	成菌	成菌	成菌	成菌	成菌	成菌	成菌	成菌	老菌	老菌	老菌	-	-	-	-	37	
18	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	幼菌	幼菌	幼菌	老菌	老菌	老菌	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	12	
19	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	幼菌	幼菌	幼菌	未確認	幼菌	幼菌	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	17	
20	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	成菌	成菌	成菌	成菌	老菌	老菌	-	54
21	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	成菌	成菌	-	-	-	11	
22	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	成菌	成菌	-	-	-	11	
子実体株数	0	2	4	4	5	5	5	11	11	11	15	16	16	16	14	13	17	15	15	11	10	10	7	7	6	2	3	3	1	0		
観察者	上原裕雄	小山明人	小山明人	小林智子	市川浩久	小林智子	小林智子	市川浩久	小林智子	小林智子	市川浩久	市川浩久	小林智子	小林智子	小山明人	小林智子	市川浩久	小林智子	市川浩久	市川浩久	小林智子	小林智子	市川浩久	市川浩久	小林智子	小山明人	市川浩久	市川浩久	小山明人	市川浩久		

-:子実体の発生なし, 未確認:調査時に記録なし